

編集後記

今年は例年と比較して秋台風がとてもしなかった。酷暑の夏から一気に冬へと移行し、朝夕の気温差も大きい。ためか平野部でも紅葉が例年以上に美しい。欧州や米国は Covid-19 パンデミックの第3波に襲われ、再びロックダウンが広がっているようだが、本邦は重症化率の低さもあってか社会は比較的落ち着いており、マイクロツリーズの盛り上がりもあって紅葉を求める人々で観光地にも賑わいが戻ってきた。この状況は日本に限らず、太平洋岸のアジア諸国は総じて落ち着いているように思われる。

今や世界第二の経済大国となった中国がコロナ禍も早々に克服して再び経済成長の軌道にも乗ったとされるのに対して、米国の政治、経済の混乱は目を覆いたくなるほどの惨状である。Covid-19 感染者は累積で950万人を超え、既に犠牲者が23万人に達する中で、時の政権が CDC や WHO の勧告を無視する政策をとりつづけ、連日で1日あたり感染者数の世界記録を更新し続けている。コロナ禍前は絶好調だった経済状況を追い風に順調に再選への道を歩んでいたトランプ大統領だったが、拙いパンデミック対策が影響してバイデン氏に敗北した。慣例に従えばこの段階で敗北宣言をし、バイデン氏をホワイトハウスに招待すべきだが、敗北を認めず法廷闘争により結果を覆そうと試みているとされる。

太平洋を挟む2大国の風景のコントラストに“自由の価値”を再度問い直しはじめた人も少なからずいるのではなかろうか。法が定める自由権は“精神”、“人身”、“経済活動”の3つの自由により構成される。保証や保護を国に求める社会権とは対照的に、自由権は国の束縛を受けずに活動する権利である。しかし、大統領選における人種問題の噴出状況を見ていると、欲望や偏見を剥き出しにした自由権の行使により社会の分断がさらに深刻化していく負のサイクルに陥っていることがわかる。

必要を超えた物への欲求や他者への妬みなどはおそらく人に特有のものであろう。高度に発達した大脳と、そこで営まれる認知はヒトの最大の武器であるが、科学技術により肉体の制約を超えて能力を拡大し、人類だけでなく地球そのものの持続性を脅かすレベルにまで達している。過度で不適切な自由権の行使を慎み、持続可能な発展を目指す SDGs (Sustainable Development Goals) は2015年に国連で採択され、2030アジェンダに従って全ての人と国が適切に行動することが求められている。コロナ禍はその重要性を一人一人が噛み締める機会を与えており、すべての人が一度立ち止まって自由権の意味を問い直すべき時のように思う。

(平田 仁)

「整形・災害外科」第63巻 第13号 (12月号) 2020年12月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 2,500 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。